名古屋城天守閣の整備　市民向け報告会（職員説明資料）

資料４－３

「名古屋城天守閣の整備」

1　趣　旨

現在の名古屋城天守閣は、再建から半世紀以上が経過し、コンクリートの劣化や設備の老朽化、耐震性の確保など様々な問題が顕在化しており、いずれかの時期には建て替えの必要があると考えています。

天守閣については、「木造復元した方が良い」、「耐震改修した方が良い」などの意見がありますが、名古屋市においては、市長の「世界にアピールできる千載一遇のチャンスである東京オリンピック・パラリンピックにあわせ、2020年7月までに天守閣を木造復元する」という方針が示されたことから、４年余りの中での迅速な整備が求められています。

天守閣の木造復元の際には、仕様の前提となる条件の確定が困難な工事であることなどから、民間ノウハウを活用する「技術提案・交渉方式」を採用することとし、工期・工程・概算事業費などを明らかにするため、２０２０年７月までに天守閣を木造復元するという提案を募集しました。

今回の報告会は、優秀提案の内容や収支計画などの情報をお知らせし、みなさまのご意見をお伺いするものです。

名古屋城天守閣の整備については、市民の皆様のご理解を得ながら進めてまいります。

２　名古屋城の概要
（１）現状

■概要

特別史跡名古屋城跡：約５０万㎡（有料区域：約２５万㎡）

重要文化財：旧本丸御殿障壁画　１，０４７面

東南隅櫓、西北隅櫓、西南隅櫓

表二之門、旧二之丸東二之門、二之丸大手二之門（有料区域外）

そ　の　他：名勝二之丸庭園、天然記念物カヤの木 など

■入場者数

年　度	22	23	24	25	26
人数（万人、切捨て）	151	141	147	165	164
全国順位	3位	4位	5位	2位	4位

■開園状況

開園時間：午前９時～午後４時３０分（桜まつり、宵まつり期間中は延長）

休 園 日：１２月２９日～１月１日

（２）あゆみ

時　期		内　　容
慶長15年	1610年	徳川家康の命により築城に着手
慶長17年	1612年	天守閣が竣工
明治　5年	1872年	陸軍省の所管となる
明治26年	1893年	宮内省に移管され名古屋離宮となる
昭和　5年	1930年	宮内省から名古屋市に名古屋城を下賜 天守閣等が城郭として国宝第1号に指定（旧国宝）
昭和　7年	1932年	名古屋城の実測調査を開始（昭和27年に実測図完成）
昭和20年	1945年	第二次大戦中の空襲により焼失
昭和34年	1959年	天守閣再建
平成21年	2009年	本丸御殿復元工事に着手

名古屋城本丸復元イメージＣＧ

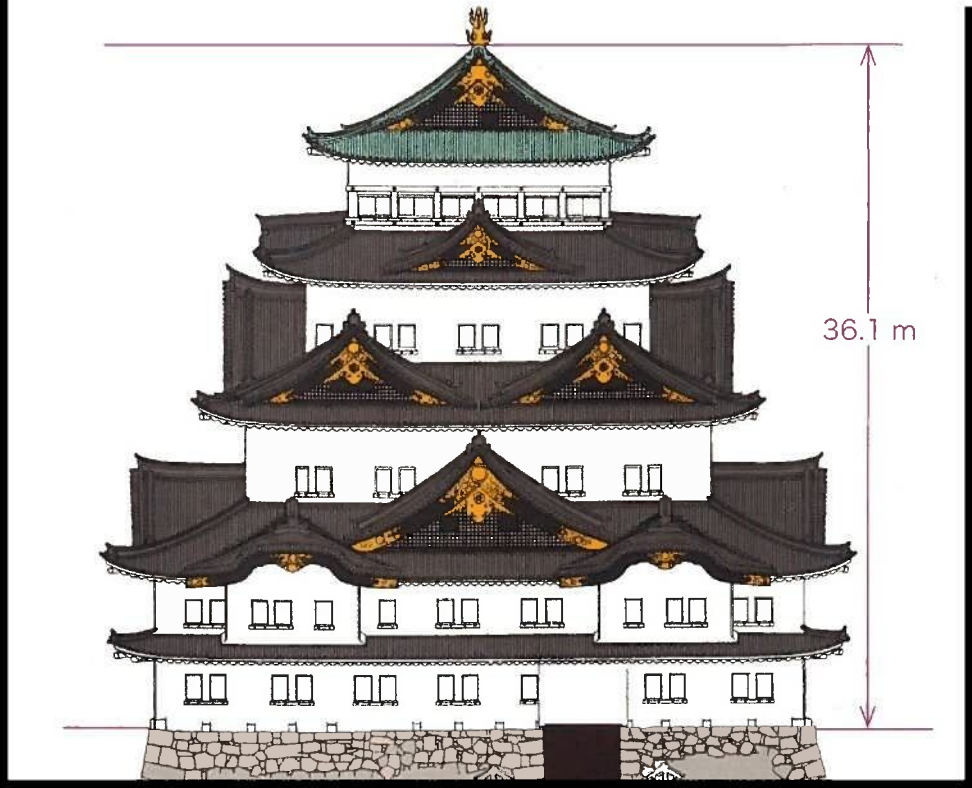
復元　三浦正幸氏　　CG　株式会社エス

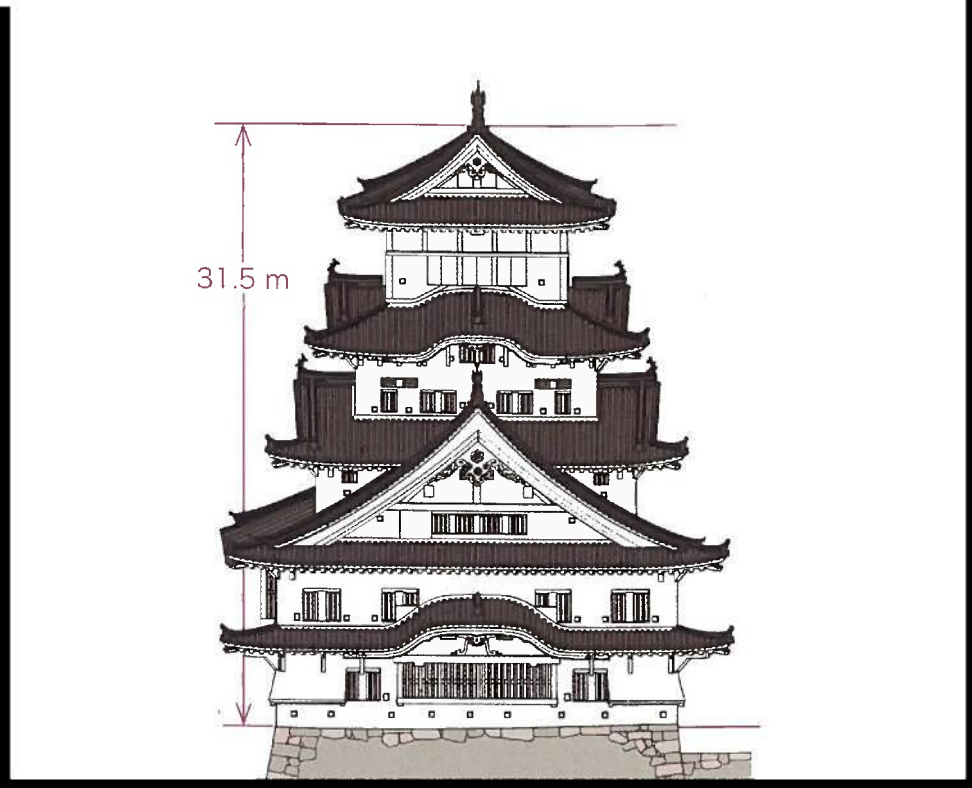
（３）焼失前の名古屋城

戦前に撮影され、戦火を逃れた７００枚を超える写真が現存しています。

（4）名古屋城と姫路城の比較

延床面積では、歴代天守閣で日本一。姫路城の約２倍です。





名古屋城

旧国宝指定：昭和5年12月
5層5階、地下1階
高さ（石垣上）：約36．1m
延床面積：約4564．0㎡

姫路城

旧国宝指定：昭和6年1月
5層6階、地下1階
高さ（石垣上）：約31．5m
延床面積：約2409．0㎡

大天守閣（概要）

- 層塔型天守
- ５層５階、地下１階
- 延床面積：４，５６４．０㎡
- 総　　高：　　４８．５ｍ

※延床面積と総高は、昭和実測図より算定

※総高は本丸地盤からの高さ（石垣の高さを含む）

小天守閣（概要）

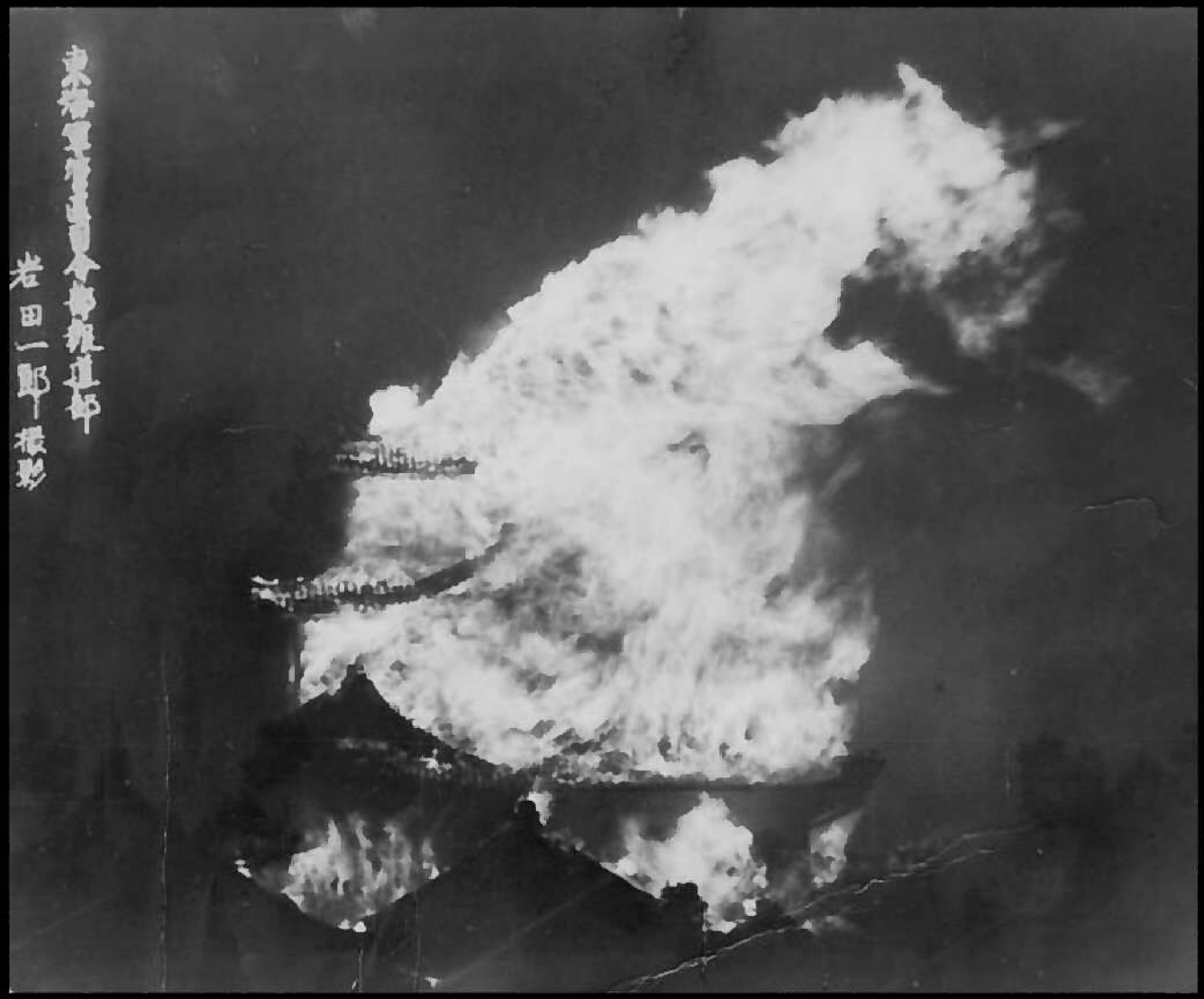
北側より

- ２層２階、地下１階
- 延床面積：８３１．９㎡
- 総　　高：　２４．７ｍ

※延床面積と総高は、昭和実測図より算定

※総高は本丸地盤からの高さ（石垣の高さを含む）

（５）戦災による焼失



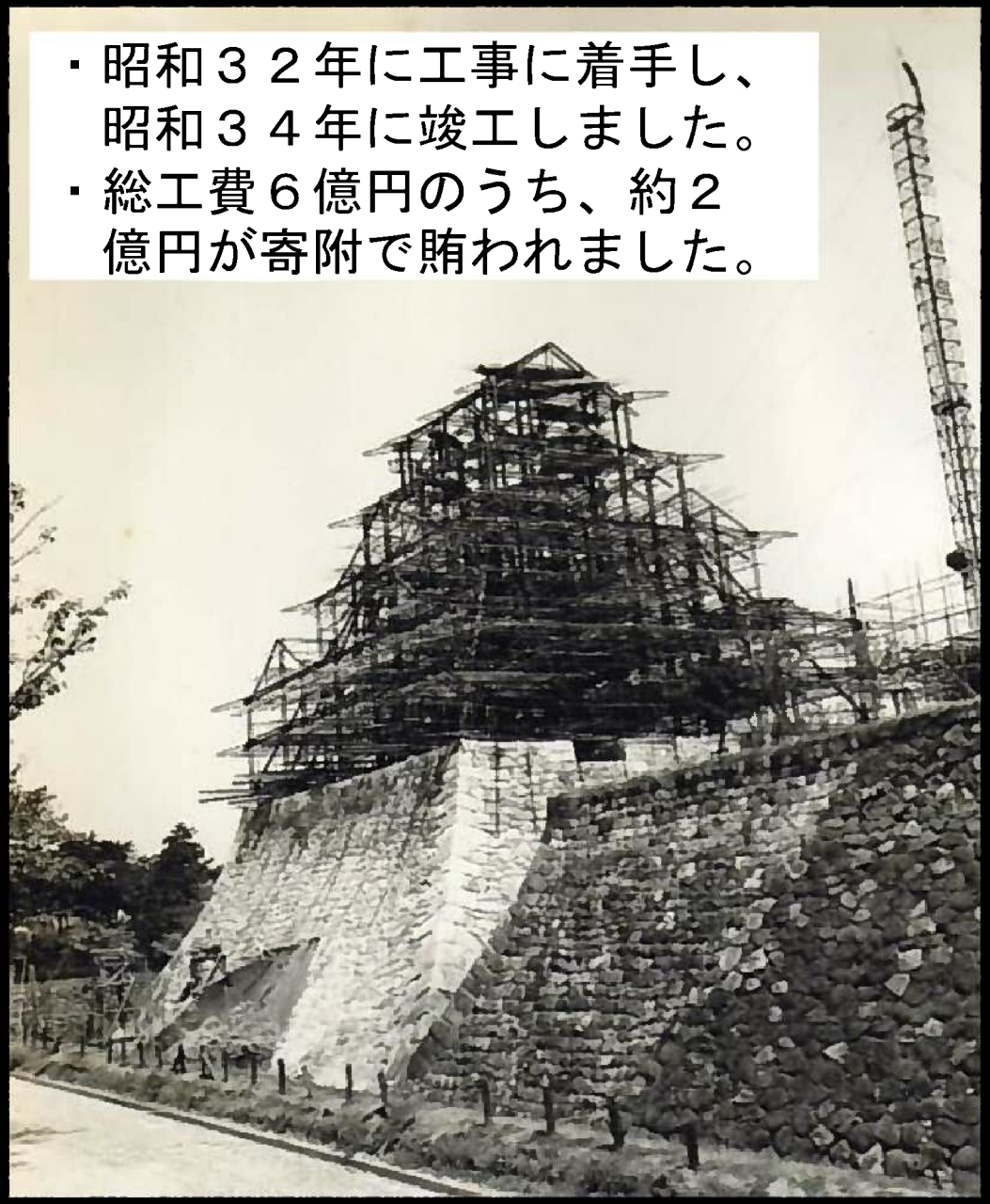
・昭和20年 5月14日
空襲により大天守閣、
小天守閣ともに焼失。

・天守閣の他にも、本丸
御殿など多くの建物が
焼失しました。

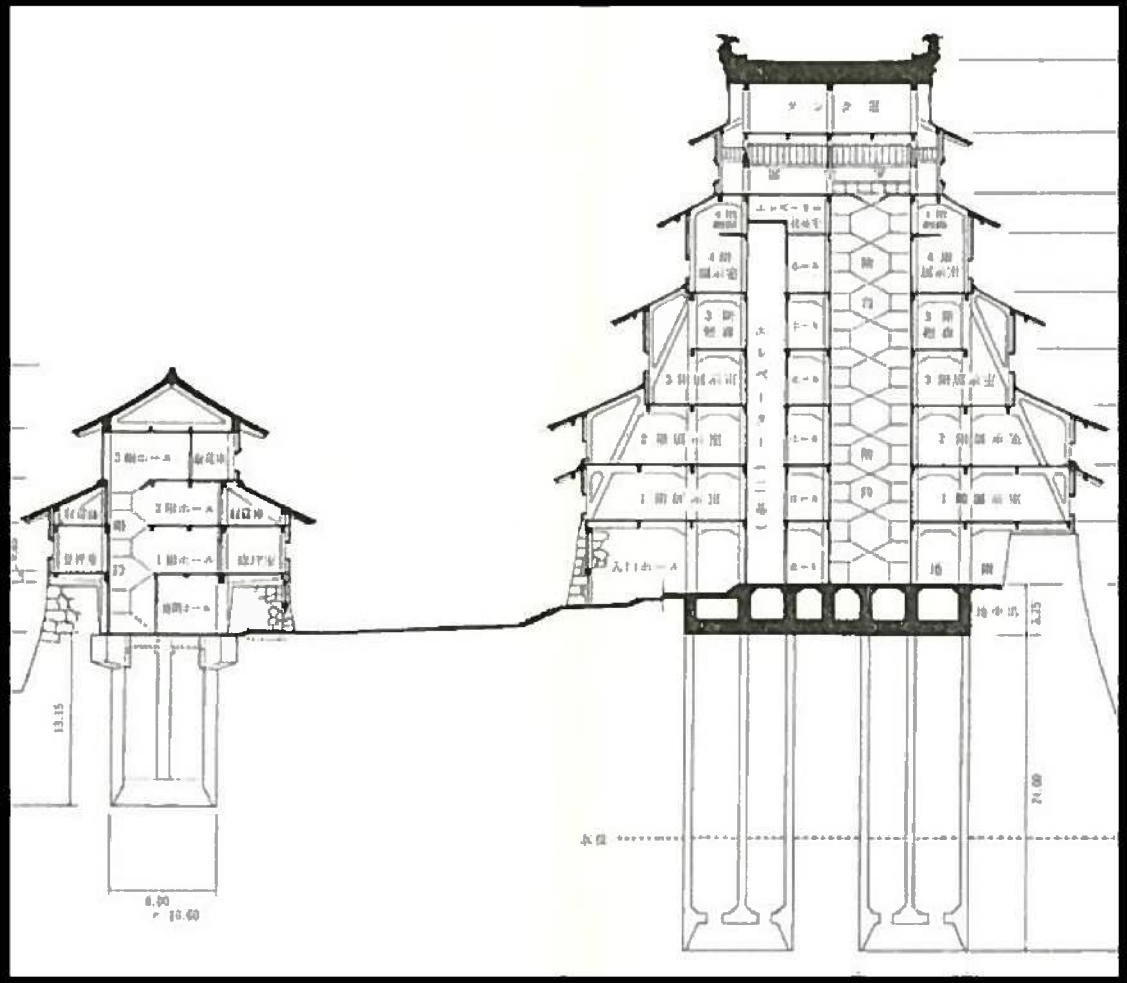
写真：東海軍管区司令部報道部 岩田一郎氏 撮影
「名古屋空襲を記録する会」蔵

（６）天守閣の再建

・昭和３２年に工事に着手し、昭和３４年に竣工しました。
・総工費６億円のうち、約２億円が寄附で賄われました。



焼失した大天守閣は５階建てでしたが、再建された天守閣は７階建てです。
天守閣の下には、大天守4本、小天守1本のケーソン基礎という箱型のコンクリート柱が埋まっており、戦災により劣化した石垣には荷重がかからないように建てられています。



・総工費約６億円
（内、約２億円が寄附）

・鉄骨鉄筋コンクリート造の
建物として再建

大天守閣
５層７階、地下１階

小天守閣
２層３階、地下１階

３　天守閣整備に対する課題
（１）内容

再建から５６年が経過し、課題が発生しています。

①コンクリートの劣化や設備の老朽化、石垣の変形などが進行しています。

②　耐震性能が現行基準に合わず、耐震改修したとしても概ね40年の寿命されています。

・耐震診断の評価　Ⅱ－２（本市耐震基準による）
震度６強程度の地震に対して、倒壊又は崩壊する可能性が高い

こうした課題を踏まえると

→　いずれかの時期には名古屋城を建て替える必要があります。

名古屋市では、平成26年度に『可能な限り早期に木造復元した場合』と、『耐震改修した後に木造復元した場合』に分けて、課題等について比較検討を行いました（下表参照）。その結果、「一般木材の流通量」はそれほど変わりませんが、「太い木材」の入手については、40年後には極めて困難になるという結果になりました。また、「社会情勢」につきましても、大工や技術者の確保など、今後より一層厳しくなると予想がなされています。

木造復元を行う場合の検討項目		可能な限り早期復元	耐震改修し40年後に復元
木材調達	大径木の流通量（400mm角以上）	△	×
	木曽ヒノキ（国有林）の流通量	△	△
	一般木材の流通量	○	○
社会情勢	建設コスト	△	△
	生産年齢人口	○	△
	税　収	○	△
	大工や技術者の確保	○	△
40年間の維持管理費		○	×
財　　源		△	△

※ ○：普通　　△：困難　　×：極めて困難

※ 平成26年度「名古屋城整備検討調査」による

（２）天守閣復元の「考え方」

■ 復元に関する文化庁の見解（平成２７年６月２２日）

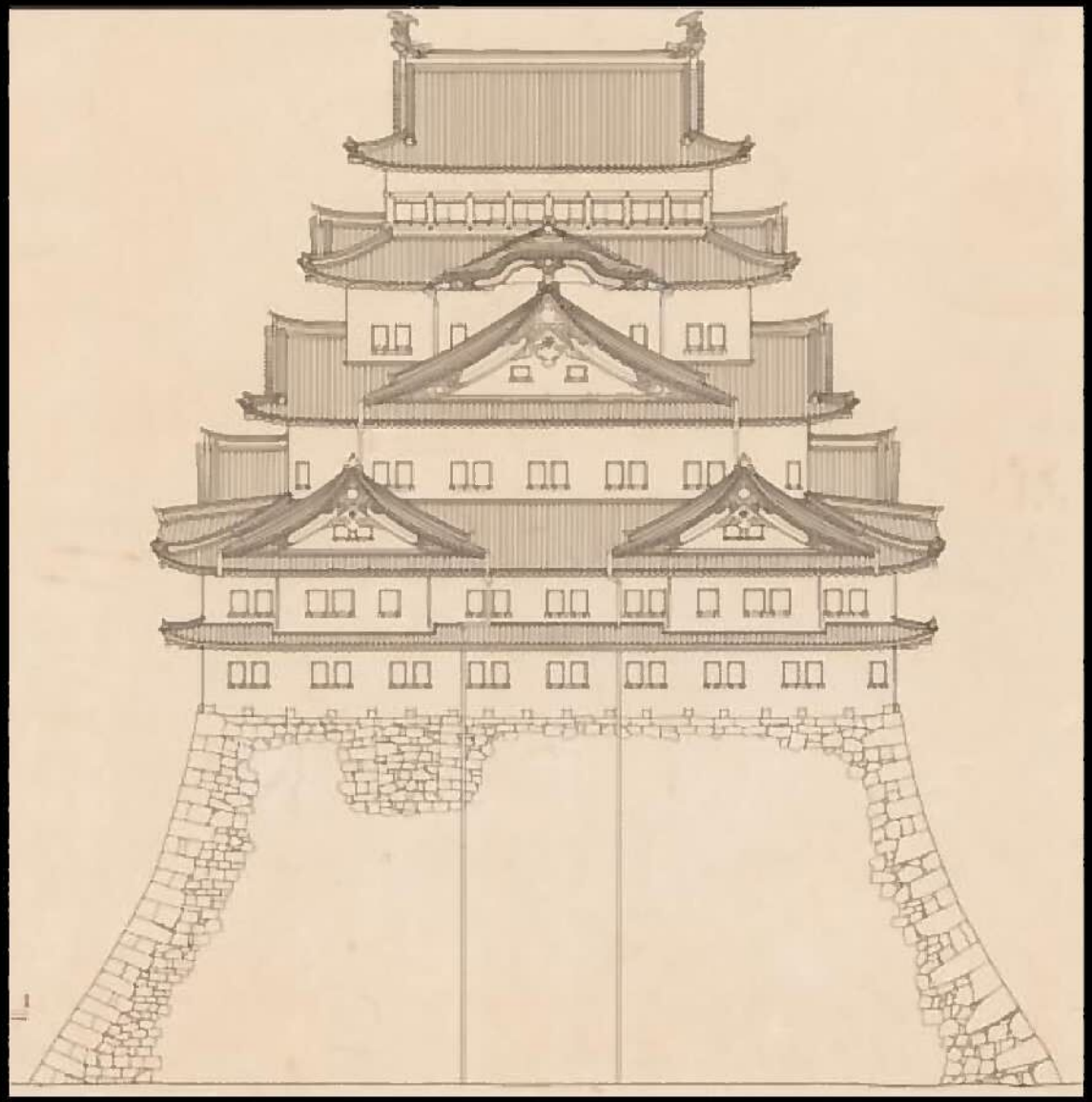
- 天守の再建については、整備主体である地元の自治体がどのような整備を行うか考えることが第一。

- その上で、天守を復元する場合は、原則として材料等は同時代のものを踏襲する必要があるが、それ以外の可能性を排除するものではない。

- 名古屋城天守閣については、往事の資料が十分そろっていることを踏まえると、いわゆる復元検討委員会において木造によるできうる限り史実に忠実な復元をすべきとの意見が出される可能性が極めて高いと考えられる。

※「復元検討委員会」とは、歴史的建造物の復元に関する具体的案件等について検討を行うため、文化庁に設置された専門委員会です。
※復元に関する文化庁の見解については、市長と議会で様々な意見が交わされました、詳しくはスライドNo.31・32・33をご覧ください。

（３）昭和実測図



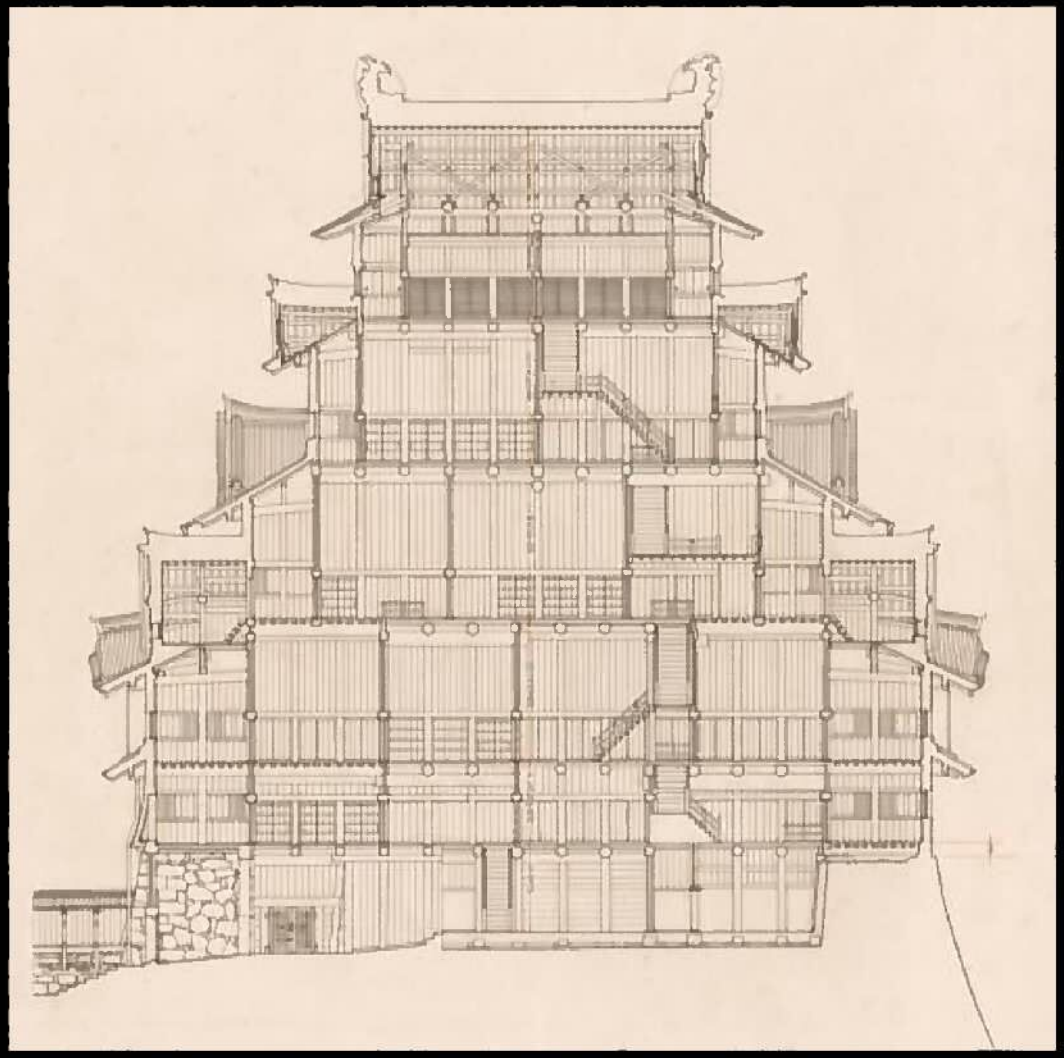
実測図があるため、史実に忠実な復元が可能と言われています。

昭和 7年から27年にかけて、天守閣をはじめ国宝建造物24棟の実測図面を作成しています。

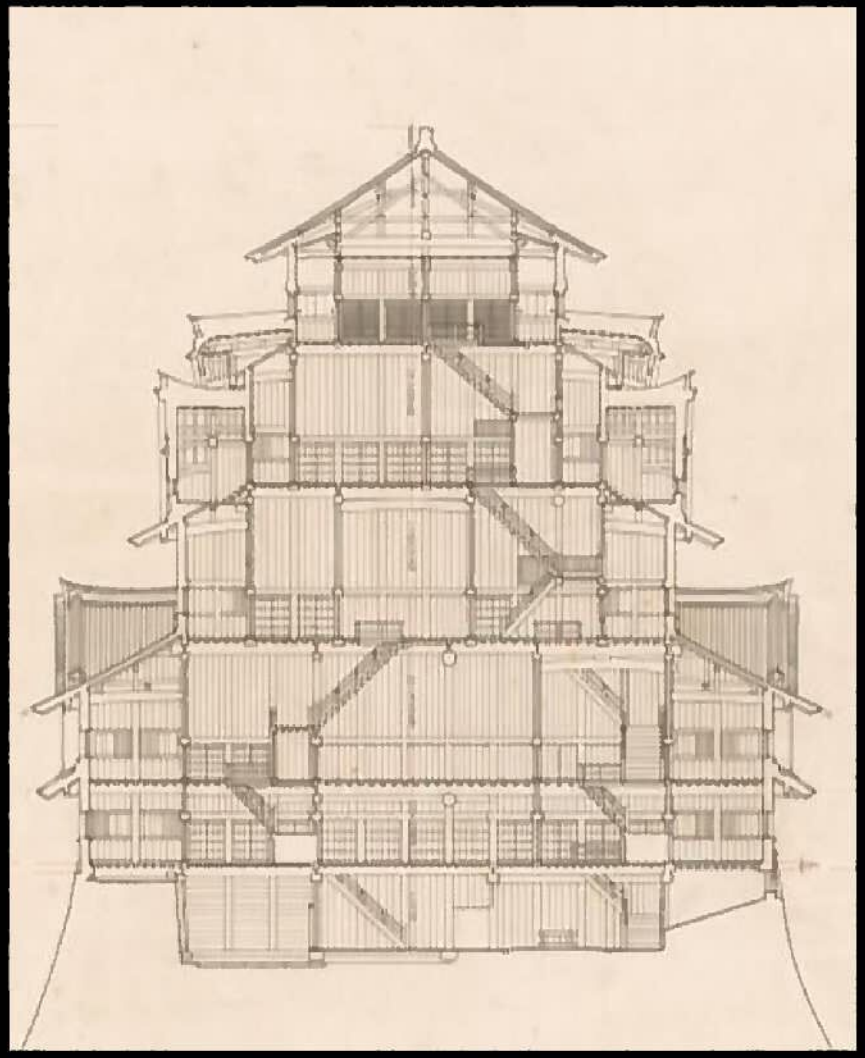
大天守閣：５６枚
小天守閣：１５枚

大天守閣立面図（西側）

昭和実測図 ②

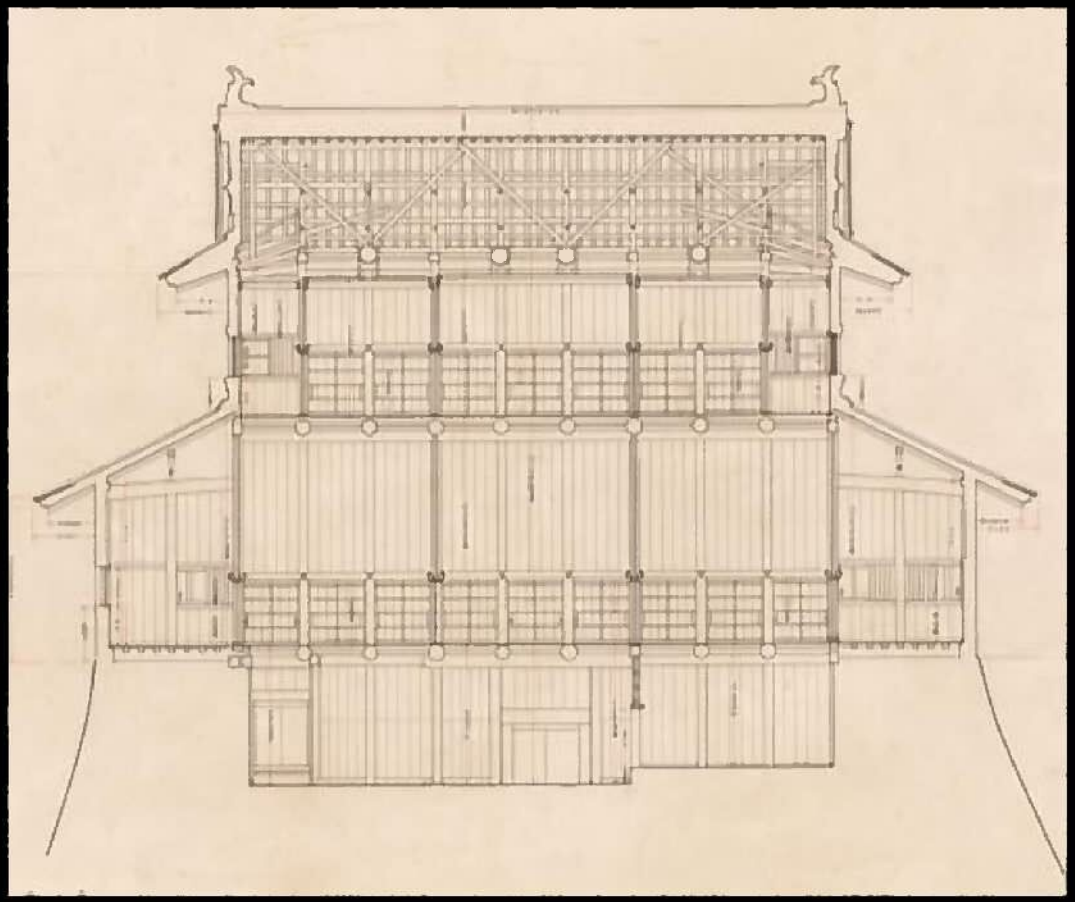


大天守閣南北断面図

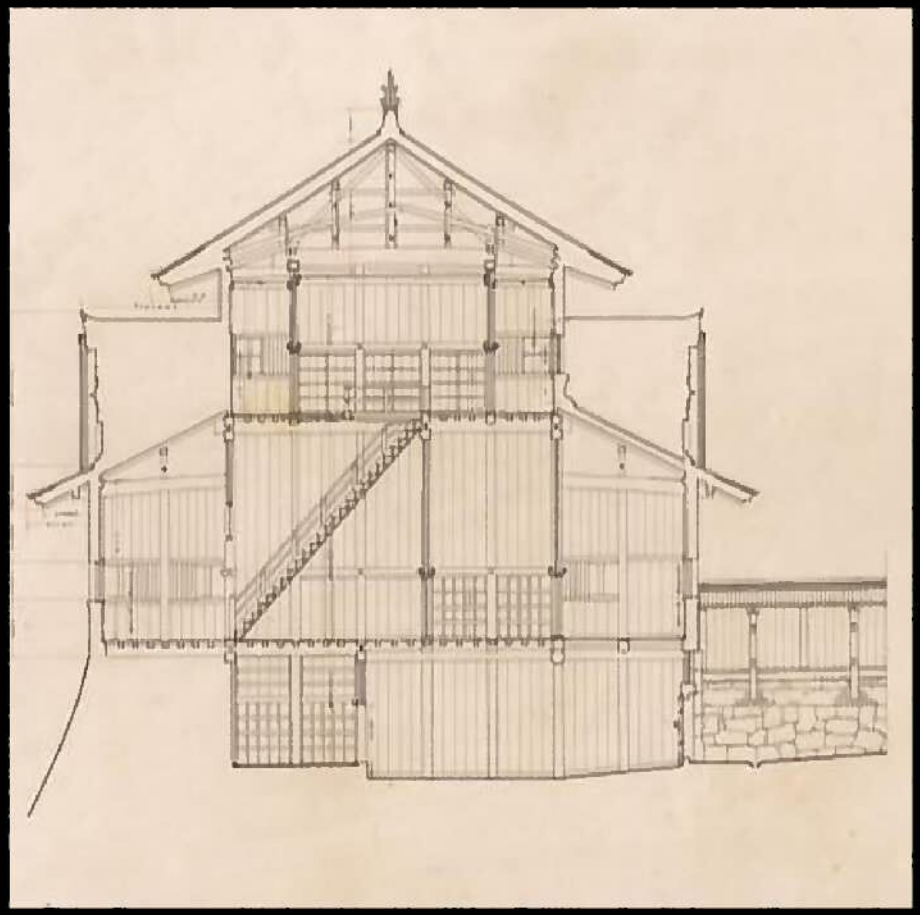


大天守閣東西断面図

昭和実測図 ③

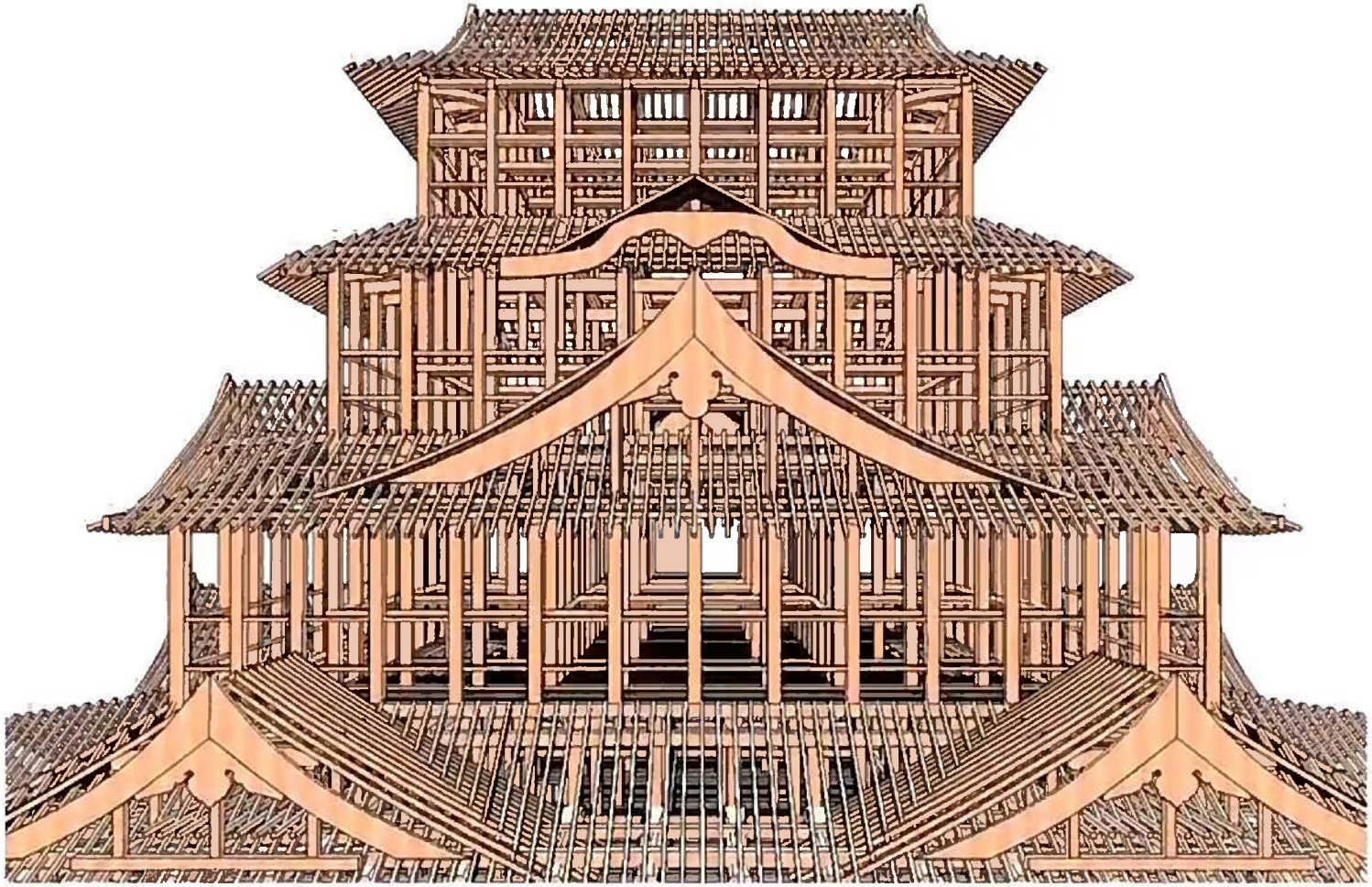


小天守閣東西断面図



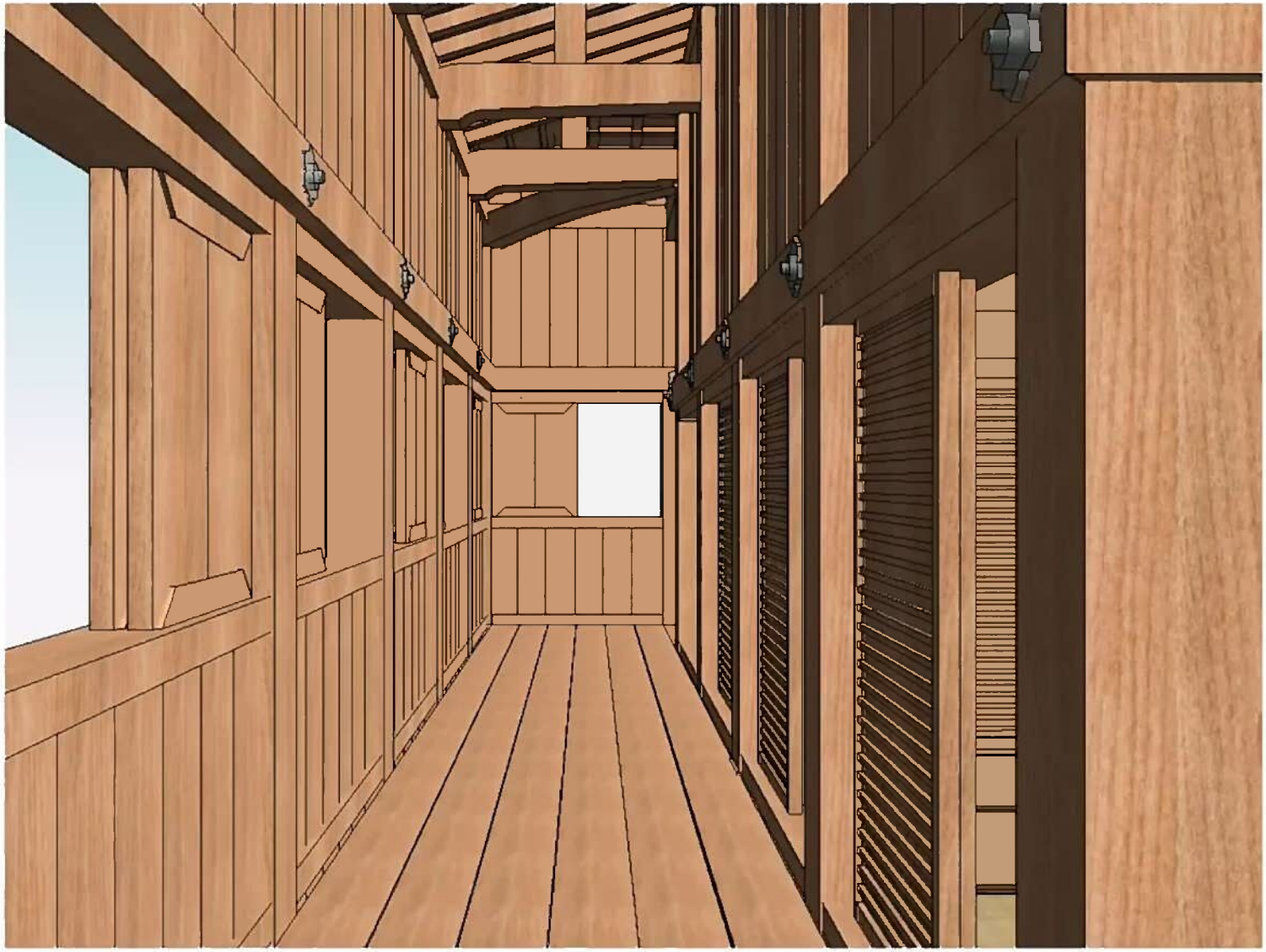
小天守閣南北断面図

昭和実測図復元イメージＣＧ①



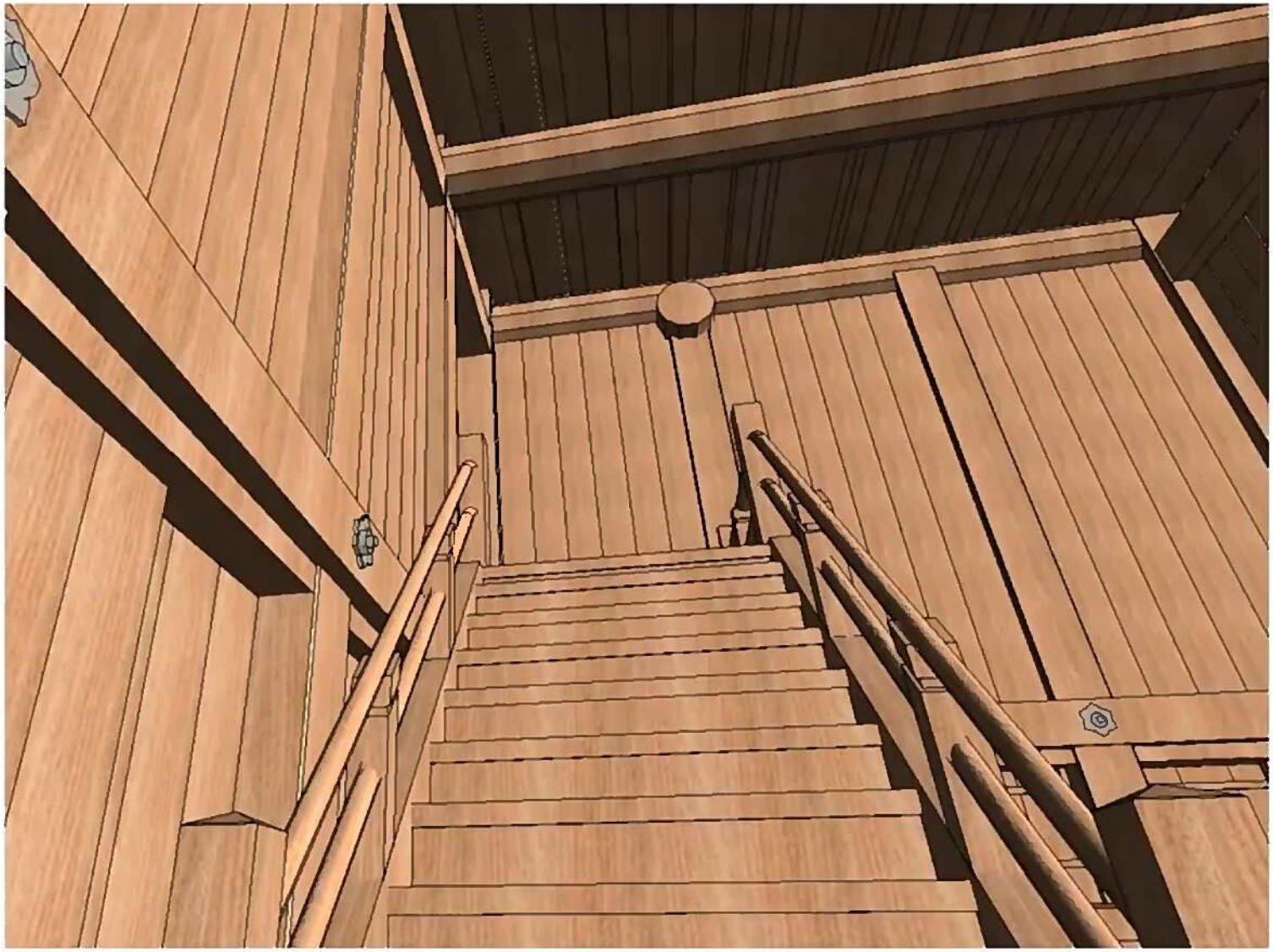
制作：川地正数氏

昭和実測図復元イメージＣＧ②



制作：川地正数氏

昭和実測図復元イメージＣＧ③



制作：川地正数氏

４　民間業者からの技術提案

（１）概要

天守閣については、「木造復元した方が良い」、「耐震改修した方が良い」などの意見がありますが、名古屋市においては、市長の「世界にアピールできる千載一遇のチャンスである東京オリンピック・パラリンピックにあわせ2020年7月までに天守閣を木造復元する」という方針が示されたことから、4年余りの中での迅速な整備が求められています。
木造復元の際には、仕様の前提となる条件の確定が困難な工事であることなどから、民間ノウハウを活用する「技術提案・交渉方式」を採用し、工期・工程・概算事業費などを明らかにするため、2020年7月までに天守閣を木造復元するという提案を募集しました。

その結果、「株式会社　竹中工務店」の提案を
「優秀提案」に選定しました。

今後、当該業者と価格や設計、施工計画、施工方法を交渉した上で、契約の相手方に決定することになります。

■技術提案・交渉方式を採用した理由

・劣化した石垣や既存のケーソン基礎の取扱いなど様々な課題があり、
仕様の確定が困難である。
・特別史跡内に大規模木造建築物を復元する工事であるため、
最も優れた技術提案によらなければ工事目的の達成が難しい。

※「技術提案・交渉方式」とは、技術提案を募集し、
最も優れた提案を行った者を優先交渉権者として、
その者と価格や施工方法等を交渉し、契約の相手方を決定する方式

■技術提案・交渉方式のメリット・デメリット

メリット	・これまでにない厳しい条件下で、高度な技術が必要とされる工事の施工が可能である。 ・施工業者がノウハウを活かして設計を行うことから、効率的な施工が可能となり、工期の短縮に繋がる。
デメリット	・提案する目的物の品質・性能と価格等のバランスの判断が困難になり、発注者にとって過剰な品質で高価格な提案となる恐れがある。 ・施工業者が実施する設計に対し、的確な判断や指示を行う能力が発注者に必要となる。

（２）優秀提案の内容

後ほど、「優先交渉権者」よりご説明します

５　天守閣木造復元にかかるお金等

（１）収支計画（財源フレーム）

優秀提案に示された概算事業費（建設費・設計費）505億円を基に収支計画を試算しました。運営管理費も含めた総事業費については、市債を発行するなど財源を確保し、全額、入場料収入で返済します。

■入場料の考え方

今回の収支計画を試算するにあたり、入場料については、市民450円、市民以外1,000円と設定しました。市民については、「名古屋城は長年にわたり市民に支えられてきた施設ですが、来場者の中で市民の占める割合が少なく市民に配慮する必要がある」、「戦略的なシティプロモーションの一環として、市民に名古屋城の魅力を情報発信する役割を担ってもらう」ことなどから特別料金を設定しています。なお、入場料の変更には、条例の改正が必要になります。

区　　分	考え方
市　　内	１１％
県　　内	７％
県　　外	６４％
国　　外	１８％

「名古屋城来場者アンケート調査２０１５報告書」より

■収支計画（全国型市場公募債の場合による試算）

・期間：平成28年度～平成81年度

・名古屋城入場料（竣工後）：市民450円　市民以外1,000円　／　現行500円

収入			支出		
事項	金額（百万円）	積算	事項	金額（百万円）	積算
入場料収入	９７，９２８	名古屋城全体の入場料収入のうち、75%を天守閣に充当 H32(8カ月) 1,791百万円 （入場者331万人） H33 2,413百万円 （入場者446万人） H34 2,170百万円 （入場者401万人） H35以降1,948百万円 （入場者360万人）	建設費（利子含む）	６０，５６７	元金：50,500百万円 利子：10,067百万円
			運営管理費	２７，６４５	H26年度実績に基づき算出 H28～H31年度（天守閣閉鎖中） 各年度平均約114百万円を計上 H32～81年度 各年度平均約544百万円を計上
			集客促進費	２００	木造復元にかかる周年事業
			修繕費	３，０８６	H81年度までの必要額
			基金積立	６，４３０	支出を上回る収入について基金積立
計	９７，９２８		計	９７，９２８	

・収支計画は、起債の償還期間終了までの平成28～81年度で作成しています。

・起債の発行年率や年次割等は、直近の実績などを参考に一定の条件で算出（年率0.665%、40年償還、20年債1回借換え等）

注　「運営管理費」については、効率的・効果的な運営や大阪城など他の城郭における民間活力の活用状況を検討することにより、さらなる経費削減に努めます。

（２）入場者数見込み

年度	入場者数	増加要因	減少要因
27	174		
28	180(197)	閉鎖に伴う駆け込み需要 本丸御殿第２期公開	天守閣閉鎖
29	90(98)		天守閣閉鎖中
30	160(174)	天守閣木造復元見学施設完成 金シャチ横丁第1期開業 本丸御殿全面公開	
31	160(174)	展示収蔵施設完成	
32	384(418)	木造天守閣竣工	
33	446(485)		ブーム縮小
34	401(437)		
35	360(393)		
36～81	360(393)		

（　）内の数字は入場者数の最大見込みの数

（３）経済波及効果（試算）

「木造復元」を行った場合、今の入場者174万人から約倍増して360万人（186万人増）と見込んでおり、それに伴う経済波及効果は１年で約100億円と試算しています。なお、「耐震改修」では、入場者の増加は想定しておりません。

区　分	木造復元		耐震改修
	名古屋市試算	優秀提案 （竹中工務店）	
概 算 経 費	約270～400億円 （使用木材に幅あり）	約474～505億円 （工事内容に幅あり）	約２９億円
建設工事による 経済波及効果	約530～780億円	約925～985億円	約６０億円
入場者数の増加による経済波及効果	毎年 約100億円 （約186万人増）		―

※ 建設工事による経済波及効果は、総務省が平成23年度産業連関表のデータから作成した簡易計算ツールにより算出

※ 入場者数の増加による名古屋市観光客・宿泊客動向調査（平成25年度）及び簡易計算ツールを用いて単年度ベースで算出

（4）他城郭の整備後比較

整備後の入場者数は大幅増です

区分		熊本城	姫路城	掛川城	大洲城
整備内容		本丸御殿 一帯整備	大天守 保存修理等	天守復元	天守復元
事業費（百万円）		5,379	3,692	2,218	1,594
入場者数（千人）	着工前	790	1,195	7	—
	竣工後	2,219（2.8倍）	予想値 2,000（1.7倍）	494（62.2倍）	85（—）
	26年度	1,631（2.1倍）		117（14.8倍）	27（—）
入場料収入（百万円）	着工前	293	580	1	—
	竣工後	854（2.9倍）	予想値 2,563（4.4倍）	129（116.3倍）	24（—）
	26年度	662（2.3倍）		39（35.0倍）	11（—）
売店等収益（百万円）	着工前	88	97	未設置	—
	竣工後	346（3.9倍）	予想値 200（2.1倍）	未設置	1（—）
	26年度	290（3.3倍）		6（—）	1（—）

※（　）書きは、着工前と比較した伸び率
※ 数値は単位未満切り捨てているので、伸び率とは合わない
※ 姫路城は、平成27年3月27日から公開のため、「竣工後」及び「26年度」欄は平成27年度の予想値

６　市民意見・議会の議論等

名古屋市では、これまで「名古屋城天守閣の整備」について、インターネットを活用したアンケートを実施するとともに、タウンミーティングや地域等での説明会などを、数々の場で市民の皆様のご意見を伺ってまいりました。また、名古屋市議会においても、さまざまな議論が交わされております。その一部をご紹介します。

（１）インターネットを活用したアンケート調査

平成25年度には、「現在の天守閣」についての課題・要望を把握し施策に生かすため、18歳以上、500人の市民をモニター(任期2年)として公募し、インターネットを活用したアンケート調査を実施しました。

【平成２５年度 第１１回　ネット・モニターアンケート】
（平成26年2月21日～3月3日）の調査結果（抜粋）

■現在の天守閣を今後どうしていくとよいと思いますか

現在の天守閣を存続させて、耐震補強や改修などを行う：71%

現在の天守閣を解体して、木造で復元する：15%

現在の天守閣を解体して現状と同じく鉄骨鉄筋コンクリートで再建する：3%

わからない：9%　　その他：2%

アンケートの設問項目「鉄骨鉄筋コンクリートで再建する」という選択肢に関連し、文化庁の見解を巡って、以下のように議論されました。

■　名古屋市（当局）の認識

【当局の認識】
（平成２６年６月定例会 本会議　市民経済局長答弁）
アンケートの実施に際して、鉄骨鉄筋コンクリートでの天守閣再建の可能性について文化庁に照会しなかったことについては配慮が足りなかったと認識している。
（平成２７年７月１日 経済水道委員会における市民経済局長発言）
６月１７日の所管事務調査において、名古屋城天守閣の整備に関し、文化庁の見解として「再建する場合は木造復元に限る」と説明したが、今回改めて文化庁に確認したところ、まず日本国内の城郭全体についての一般論として、「天守の再建については、整備主体である地元の自治体がどのような内容の整備を行うか考えることが第一」であり、「その上で、天守を復元する場合は、原則として材料等は同時代のものを踏襲する必要があるが、それ以外の可能性を排除するものではない」、一方、具体論として、「名古屋城天守閣については、往時の資料が十分そろっていることを踏まえると、いわゆる復元検討委員会において木造によるできうる限り史実に忠実な復元をすべきとの意見が出される可能性が極めて高いと考えられる」との見解であった。前回の委員会における文化庁の見解についての資料および説明において、正確性を欠いていた。

■　議会の意見、市長の見解

【議会での意見】　（平成２７年７月１日 経済水道委員会）

・天守を復元する場合は、それ以外の可能性を排除するものではないということであれば、木造もあり、そして今の鉄骨鉄筋もあり、そしてハイブリッドのようなものもありということ。

・今回、木造にするのか、あるいは、ハイブリッドなのか、あるいは延命をしていくのかという、三つの選択肢が示されたということだと思う。

【市長の見解】　（平成２７年７月６日 市長定例記者会見）

（文化庁の）復元検討委員会が開かれるときに、木造で建てなさいよという意見が出る可能性が極めて高いということは、そこの中でわかってくださいよということです。だからこれは木造ということになるんですよ。

（２）市民意見

■討論会やフォーラム等での主な意見

これまでも、適宜、市民向けの討論会やフォーラムなどを開催し、市民の方の意見を聞いてきました。

【平成23年度】「名古屋城の将来を語る市民大討論会」での主な意見

・日本の歴史的文化遺産として後世に残すためにも木造天守閣は必要

・東北隅櫓、多聞櫓の復元を優先すべきで、天守閣の木造復元はその後に考えること

【平成26年度】「名古屋城天守閣フォーラム」、「寄附者懇談会」での主な意見

・“尾張名古屋は城でもつ”と言われるように天守閣は名古屋のシンボルである
　一刻も早く本来の木造で復元すべき

・天守閣を建て替える必要性がまだ感じない

・やるならば多聞櫓や馬出の復元が望ましい

・木造復元する際には市民の方も寄附をできる範囲でさせて頂きたいと思う

【平成27年度】「名古屋城天守閣フォーラム」での主な意見

・「木」にしていただきたいと強く思う

・現在の天守閣を今後も大切に保存していただきたいと思う

■タウンミーティングでの主な意見

平成２７年１２月６日から平成２８年１月１７日にかけて１６区において、天守閣の現状や課題、過去の調査結果、経済波及効果、検討状況などについての説明会を実施し、のべ２６３２人の方々にご参加いただきました。

【平成２７年度】タウンミーティングでの主な意見
・これだけの資料が残っているのでぜひ木造でやってほしい
・日本古来の技術を伝承するために再建してほしい
・観光資源として木造復元を望む
・２０２０年にこだわる必要はない
・市民生活が苦しい中で、今木造復元をするべきではない
・バリアフリー、財源、木材の確保をどうするのか

（３）議会の議論

議会でも、天守閣の整備については、これまでも積極的に議論がなされてきました。

平成27年6月17日　経済水道委員会における主な議論

・名古屋城全体の整備に対する考え方
・木造復元に係る工期・事業費
・木造復元に伴う経済波及効果

平成27年7月1日　経済水道委員会における主な議論

・整備に関する文化庁の見解
・木造復元に係る財源の確保
・天守閣の整備手法

平成27年9月定例会　経済水道委員会における主な議論

・新たな市民アンケートの実施時期、方法及び市民負担の明示に係る考え方
・特別史跡名古屋城跡全体整備計画との整合性
・寄付金募集の重要性に対する当局の認識
・整備に係る想定スケジュール

平成27年9月定例会　補正予算可決時に付された附帯決議

名古屋城天守閣の木造復元に係る概算経費が約270億円から400億円と莫大であり、厳しい財政状況の中、市民生活に大きな影響を与える懸念があることから、関係局との協議を踏まえ、国・県支出金、寄附金、地方債、市税等の割合を含めた財源フレームを明確にし、優秀提案選定後の工期・工程・概算事業費等が明らかになった段階で速やかに、市民アンケートを実施しあわせて議会へ報告すること

〈附帯決議〉議決された条例案・予算案に関して付される施行についての意見などを表明する決議

平成28年2月定例会　経済水道委員会における主な議論

・天守閣整備に係る今後の想定スケジュール
・２万人アンケートの位置づけ及び内容
・財源フレームの考え方

平成28年2月定例会　予算可決時に付された附帯決議より

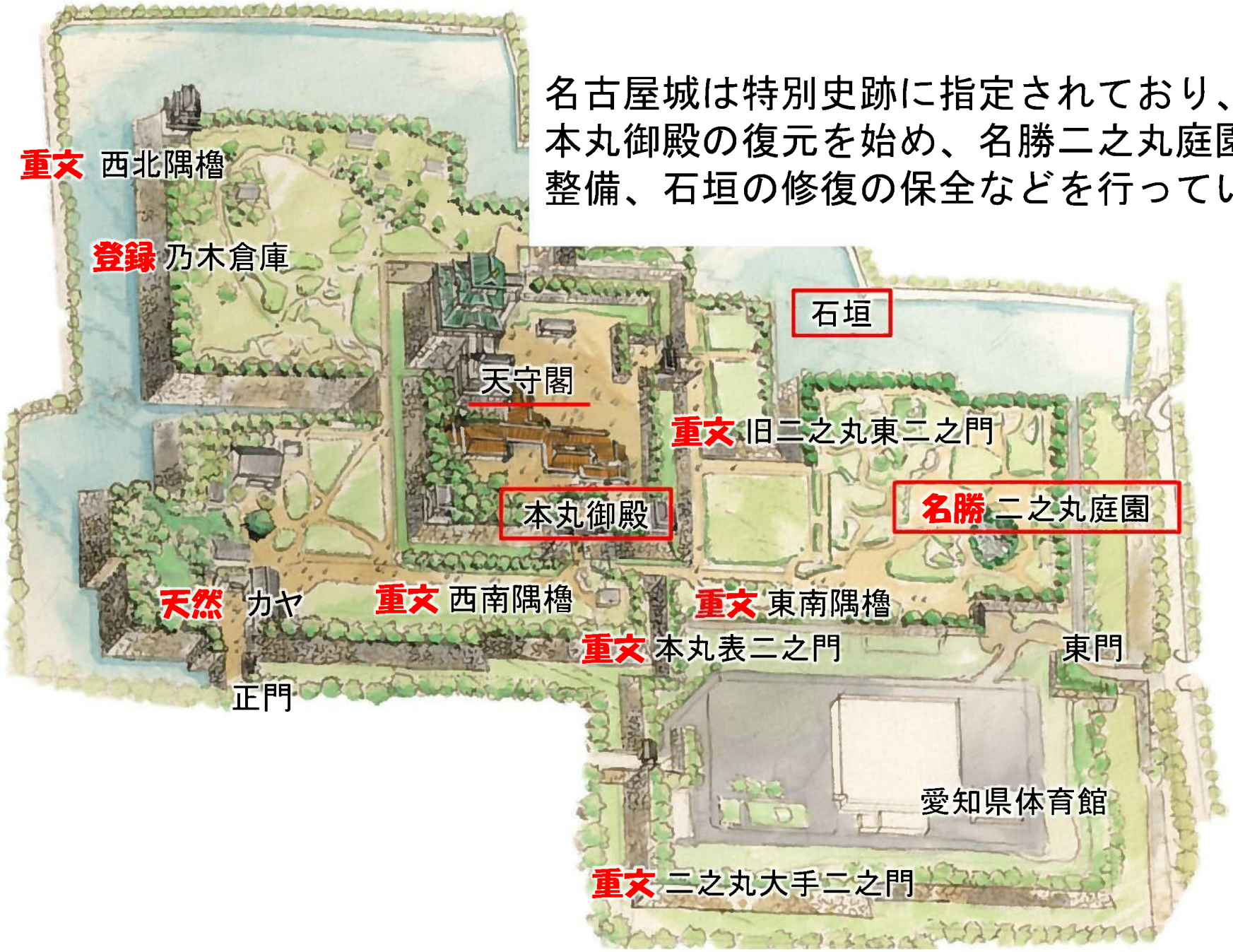
名古屋城天守閣の整備検討に係る市民アンケートの実施にあたり、当局が市民に対し情報提供を行うとした技術提案・交渉方式に係る優秀提案の内容、天守閣整備に係る財源フレーム（案）などが、本予算審議において明らかにならなかった。こうした状況に鑑み、名古屋城天守閣の整備検討に係る市民向け報告会、市民アンケート及び広報なごや特集号の各予算については、正確な情報提供に基づいて天守閣整備に対する意向を市民に判断いただく必要があるため、優秀提案の選定結果、財源フレーム（案）及びこれらの内容を正確に踏まえたアンケート項目などが明確になった段階で、その内容について速やかに議会へ報告・協議した上で執行すること

7　その他の名古屋城整備

名古屋城に残る貴重な文化財を後世に伝えるとともに、名古屋城の魅力を高めるため、『特別史跡名古屋城跡全体整備計画』を策定し、同計画に基づいて整備を行っています。また、特別史跡の区域外においても、名古屋城の賑わいをさらに創出するために金シャチ横丁の計画を推進しています。

（1）名古屋城の整備状況

名古屋城は特別史跡に指定されており、現在、本丸御殿の復元を始め、名勝二之丸庭園の保全整備、石垣の修復の保全などを行っています。



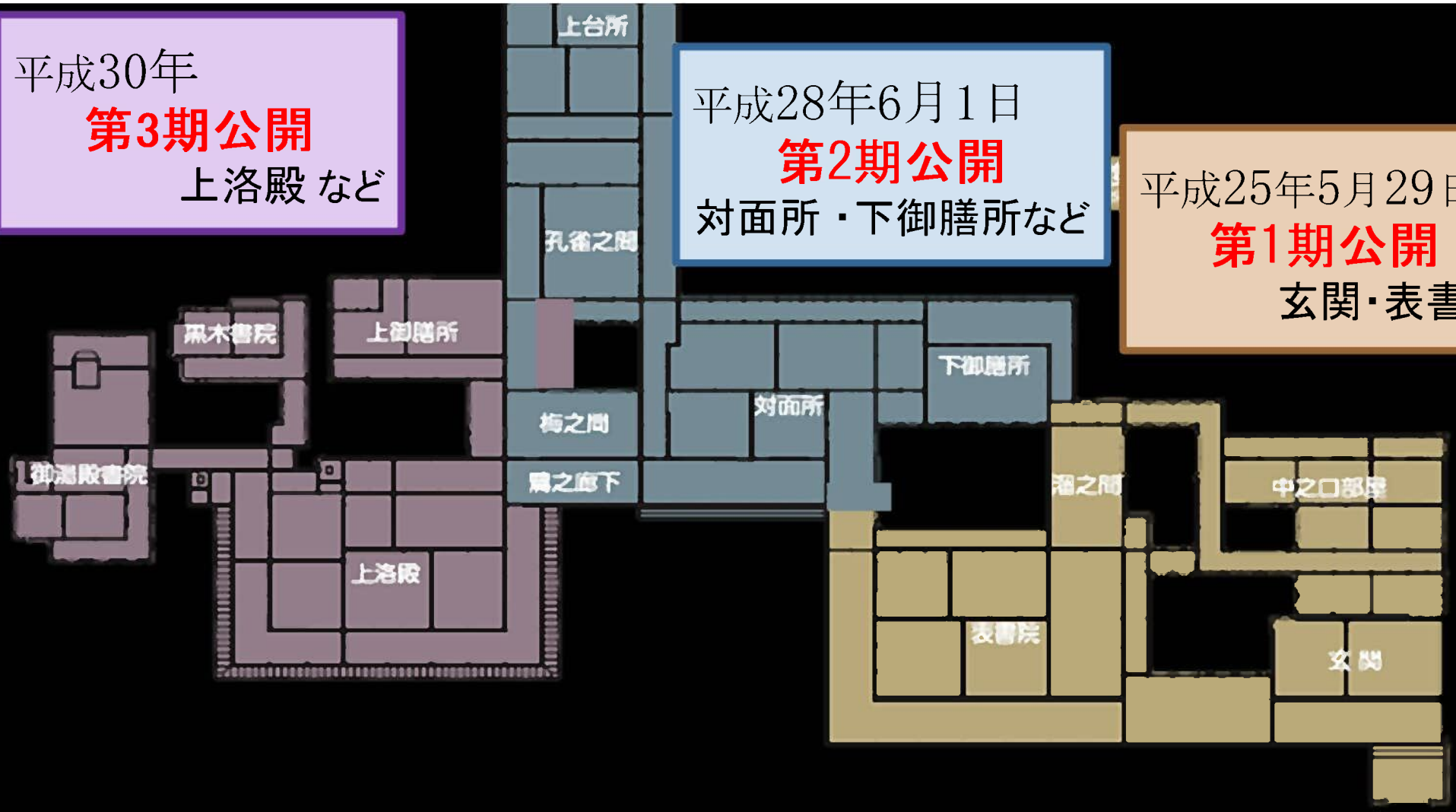
（２）本丸御殿の復元

本丸御殿は、現在国宝である京都・二条城の二の丸御殿に並ぶ武家風書院造の最高傑作と言われています。その歴史的意義を踏まえ、焼失前と同等の文化的価値を有するとともに広く市民が活用でき、世界的な市民の財産となるように、工期を3期10年で総事業費約150億円をかけて本丸御殿の復元を進めています。

平成30年
第3期公開
上洛殿 など

平成28年6月1日
第2期公開
対面所・下御膳所など

平成25年5月29日
第1期公開
玄関・表書院



焼失前の本丸御殿と同等の歴史的文化的価値を有する建物を再現するよう、原則として旧来の材料・工法による、旧状再現を図るものとしています。

▲ 玄関 車寄せ

「竹林豹虎図 」（重要文化財）　▶

戦災を逃れた障壁画１，０４７面が重要文化財に指定されています。

（3）名勝 名古屋城二之丸庭園の保存整備

▲ 北御庭

愛知県で唯一国による名勝指定を受けた庭園です

現在発掘調査を行うとともに整備を実施しています。

発掘調査 ▶

からめてうまだし

（４）石垣（本丸搦手馬出）の修復

名古屋城の石垣は西国を中心とした２０の外様大名により築かれる。
現在本丸東に位置する本丸絡手馬出の石垣を修復中

・平成１６年度から石材の取り外しを開始
・現在４０００石に及ぶ解体がほぼ終了
・今後、積み直しを実施

（５）金シャチ横丁の推進

名古屋城とその周辺の魅力向上、賑わい創出するとともに来場者へのおもてなし、さらには名古屋の魅力発信を図るため、金シャチ横丁の整備を推進しています。平成３０年３月ごろの開業予定です。

お越しいただいた皆様になごやめしや
お土産をご提供します。

「名古屋城天守閣の整備」について

これからも市民の皆様の理解を得ながら進めてまいります。